

(様式第 10)

府病成第 1325 号
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
開設者名 理事長 遠山 正彌

大阪府立成人病センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒558-8558 大阪市住吉区万代東 3 丁目 1 番 5 6 号
氏 名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 理事長 遠山 正彌

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター

3 所在の場所

〒537-8511 大阪府大阪市東成区中道 1 丁目 3 番 3 号	電話(06) 6972-1181
------------------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器内科 2 呼吸器内科 3 血液内科 4 腫瘍内科 5 循環器内科 6 脳神経内科	
7 内分泌代謝内科 8 9 10 11 12	
13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1 消化器外科 2 呼吸器外科 3 乳腺外科 4 心臓血管外科 5 形成外科 6		7
8 9 10 11 12 13		14
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科		
8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科		
14放射線治療科 15麻酔科 16救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 臨床検査科 2 病理診断科 3 リハビリテーション科 4 5 6		
7 8 9 10 11 12 13		
14 15 16 17 18 19 20		
21		

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	500床	500床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	120人	65人	163.9人	看護補助者	41人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	4人	0.3人	理学療法士	5人	臨床検査技師	61人
薬 剤 師	28人	5人	31.1人	作業療法士	2人	衛生検査技師	2人
保 健 師	1人	人	1人	視能訓練士	人	その他	人
助 産 師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	488人	31人	507.6人	臨床工学技師	5人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	1人	8人	6.6人	栄 養 士	人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	人	1人	0.7人	歯 科 技 工 士	人	事務職員	160人
管理栄養士	3人	3人	5.1人	診療放射線技師	42人	その他の職員	100人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	7人	眼 科 専 門 医	人
外 科 専 門 医	21人	耳鼻咽喉科専門医	5人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	7人
小児科専門医	人	脳神経外科専門医	2人
皮膚科専門医	人	整形外科専門医	6人
泌尿器科専門医	5人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	5人	救急科専門医	人
		合 計	71人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	422.6人	0人	422.6人
1日当たり平均外来患者数	1016.8人	0人	1016.8人
1日当たり平均調剤数	入院 693.6 剤	外来 90.3 剤	
必要医師数	71.97 人		
必要歯科医師数	0 人		
必要薬剤師数	15 人		
必要(准)看護師数	246 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	175.44m ²	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 92.40m ² [移動式の場合] 台数 4台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 73.44m ² [共用室の場合] 共用する室名 治験薬管理室					
化学検査室	141.60m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動生化学免疫分析装置、全自動免疫測定装置 全自動血液凝固分析システム			
細菌検査室	48.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査システム 全自動血液培養検査装置			
病理検査室	298.70m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 光学顕微鏡、バーチャルスライド投影装置 自動染色装置、自動免疫染色装置			
病理解剖室	50.66m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、冷蔵庫			
研究室	4,267.93m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 質量分析装置、セルソーター 次世代DNAシーケンサー			
講義室	310.74m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	167 人
図書室	272.95m ²	鉄筋コンクリート	室数	8 室	蔵書数	38,340冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	94.2%	逆紹介率	191.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数	6,271 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,072 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	176 人	
	D: 初診の患者の数	6,843 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	食道がんに対するシンバイオティクス併用化学療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 術前化学療法時にシンバイオティクスを併用することで骨髄毒性、消化器毒性を軽減する			
医療技術名	膵がんに対する新規抗がん剤を用いた強力な術前化学放射線療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 進行膵がんに対して術前にゲムシタピン併用化学放射線療法を行うことで予後を改善する			
医療技術名	胃がん腹膜微小転移検出のための蛍光腹腔鏡検査	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要 進行胃癌症例に対して術前検査としてALAによる蛍光腹腔鏡検査を行うことで通常では同定できない微小腹膜転移を診断する			
医療技術名	直腸がんに対するICG／赤外線カメラを用いたセンチネルリンパ節ナビゲーション手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 下部直腸がん症例に対してICG／赤外線カメラによる側方リンパ節転移のセンチネルリンパ節生検を行い、その情報に基づいて指摘廓清範囲を決定する			
医療技術名	門脈腫瘍腺陽性肝がんに対する定位照射	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 Vp3-4の高度進行肝細胞がんに対して術中がん細胞の散布を予防する目的で術前に門脈腫瘍占部に定位照射を行う			
医療技術名	食道ESD	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 広範な病変を切除すると術後狭窄が必発であるが、当科では狭窄予防にステロイド剤の局所注入を行い、広範な食道がんの切除を可能にしている			
医療技術名	食道がんのPDT	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 化学放射線療法後などに食道がんが遺残した場合、内視鏡切除が困難な場合がある。このようながんに対してPDTで治療を行っている			
医療技術名	大腸ESD	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 EMRでは切除が困難な大腸ポリープや大腸がんは従来外科手術が必要であった。しかし、最近そのようなポリープをESDで切除できるようになった。ESDは技術的に困難であるが、当院では年間100件程度のESDを施行している			
医療技術名	肺縮小手術に対する術中肺切離面洗浄細胞診の開発	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 小型肺がんに対する縮小手術時のがん遺残をチェックするための検査の開発			
医療技術名	肺腺がんに対する捺印細胞診による悪性度分類の開発	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 小型肺がんの縮小手術適応を決めるため、術中にがん細胞の悪性度診断を細胞診にて行う検査の開発			
医療技術名	抗がん剤感受性試験(CD-DST法)や遺伝子検査を用いた肺がん化学療法	取扱患者数	約80人
当該医療技術の概要 手術時の肺がん組織を用いて抗がん剤感受性を検査する技術の開発と、そのデータによる術後の抗がん剤選択の臨床応用			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	新規抗がん剤を用いたより強力な術前化学放射線療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 アバスチンなど新しい抗がん剤を用いた術前導入療法や放射線治療併用療法の開発			
医療技術名	赤外線カメラを用いてセンチネルリンパ節ナビゲーションを応用した過不足のないリンパ節廓清技術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肺がん手術時にセンチネルリンパ節を同定し、リンパ節転移の有無やリンパ流入経路を検討しながらリンパ節廓清術を行う技術開発			
医療技術名	RFA当院独自の新規診療技術	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 多針同時穿刺バイポーラRFA、治療前後のCT/MRIを用いて作成した3Dfusion画像での治療効果判定			
医療技術名	早期膵がん発見のための膵精密超音波検査	取扱患者数	1461人
当該医療技術の概要 早期膵がん発見のための精密超音波検査			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	0人	・膿疱性乾癬	0人
・多発性硬化症	4人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	10人	・原発性胆汁性肝硬変	16人
・全身性エリテマトーデス	1人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	0人
・再生不良性貧血	25人	・混合性結合組織病	1人
・サルコイドーシス	2人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	0人	・特発性間質性肺炎	0人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	1人	・網膜色素変性症	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	27人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	0人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	13人	・神経線維腫症	1人
・大動脈炎症候群	4人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	0人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	12人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	0人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	0人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	17人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・後縦靭帯骨化症	9人	・肥大型心筋症	26人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	2人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	0人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	36人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	1人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、 先端巨大症、下垂体機能低下症)	1人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん性疼痛緩和指導管理料	・無菌製剤処理料1
・がん患者カウンセリング料	・無菌製剤処理料2
・外来緩和ケア管理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ
・移植後患者指導管理料(造血幹移植後)	・運動器リハビリテーション料Ⅰ
・糖尿病透析予防指導管理料	・呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
・外来リハビリテーション診療料	・がん患者リハビリテーション料
・ニコチン依存症管理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術含む)及び脳刺激装置交換術
・がん治療連携計画策定料1	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん治療連携管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1・2
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ペースメーカー移植術
・薬剤管理指導料	・ペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1・2	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・外来放射線照射診療料	・腹腔鏡下肝切除術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・HPV核酸検出	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下小切前立腺悪性腫瘍手術
・時間内歩行試験	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・神経学的検査	・輸血管管理料Ⅱ
・センチネルリンパ節生検	・人工肛門・人工膀胱造設術処置加算
・CT透視化気管支鏡検査加算	・内視鏡手術用支援機器加算
・画像診断管理加算2	・医科点数表第2章第10部手術の通則第5号及び第6号に掲げる手術
・CT撮影及びMRI撮影	・麻酔管理料(Ⅰ)
・冠動脈CT撮影加算及び心臓MRI撮影加算	・麻酔管理料(Ⅱ)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・放射線治療専任加算
・外来化学療法加算1	・外来放射線治療加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性及び安全性に関する多施設共同研究	飯石 浩康	診療局長	1,000,000	補委	厚生労働省
肺癌に対する手術を中心とした集学的治療	東山 聖彦	診療局長	300,000	補委	厚生労働省
肺癌に対するWT1ペプチド免疫療法の開発	東山 聖彦	診療局長	1,200,000	補委	厚生労働省
食道がん化学放射線療法後局所遺残再発例に対するタラボルフィリンナトリウム(レザフィリン)及び半導体レーザー(PDレーザー)を用いた光線力学療法の医師主導治験	石原 立	消化管内科	2,200,000	補委	厚生労働省
レーザー消化管内視鏡治療装置の開発	上堂 文也	消化管内科	600,000	補委	厚生労働省
切除不能局所進行膵がんに対する標準的科学的放射線療法の確立に関する研究	片山 和宏	肝胆膵内科	0	補委	厚生労働省
慢性ウイルス性肝疾患の非侵襲的線維化評価法の開発と臨床的有用性の確立	今中 和穂	肝胆膵内科	500,000	補委	厚生労働省
進行肺癌に対する化学療法	今村 文生	呼吸器内科	300,000	補委	厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科	400,000	補委	厚生労働省
超高齢化社会における治癒困難な後期高齢がん患者に対する標準治療の確立および個別化への応用に関する臨床研究	杉本 直俊	臨床腫瘍科	100,000	補委	厚生労働省
腹膜播種を伴う胃癌に対するパクリタキセル腹腔内投与併用療法の有用性を評価する第Ⅲ相臨床試験	藤原 義之	消化器外科	3,300,000	補委	厚生労働省
肛門扁平上皮癌に対する新規化学放射線療法の確立	能浦 真吾	消化器外科	1,500,000	補委	厚生労働省
骨転移の標準的治療指針の確立と稀少軟部肉腫治療法の開発	荒木 信人	整形外科	500,000	補委	厚生労働省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	荒木 信人	整形外科	240,000	補委	厚生労働省
進行卵巣癌・卵管癌・腹膜癌に対する腹腔内化学療法確立のための研究	上浦 祥司	婦人科	400,000	補委	厚生労働省
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	西村 和郎	泌尿器科	300,000	補委	厚生労働省
頭頸部外科領域における手術手技の開発と標準化	藤井 隆	耳鼻咽喉科	450,000	補委	厚生労働省
NO口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為比較試験	鈴木 基之	耳鼻咽喉科	700,000	補委	厚生労働省
放射線治療を含む標準治療確立のための研究	手島 昭樹	放射線治療科	200,000	補委	厚生労働省
放射線治療期間短縮による治療法の有効性と安全性に関する研究	手島 昭樹	放射線治療科	0	補委	厚生労働省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
がん統計情報の整備に関する研究	津熊 秀明	がん予防情報センター長	300,000	補委	厚生労働省
院内がん登録の標準化と普及に関する研究	津熊 秀明	がん予防情報センター長	400,000	補委	厚生労働省
印刷労働者に見られる胆管癌発症の疫学的解明と原因追究	津熊 秀明	がん予防情報センター長	500,000	補委	厚生労働省
利用者側から見た適切ながん登録(がん対策)情報提供方法の開発に関する研究	井岡 亜希子	がん予防情報センター	300,000	補委	厚生労働省
がんの実態把握とがん情報の発信に関する研究	井岡 亜希子	がん予防情報センター	800,000	補委	厚生労働省
小児がん経験者の晩期合併症及び二次がんに関する長期フォローアップシステムの整備に関する研究	井岡 亜希子	がん予防情報センター	250,000	補委	厚生労働省
科学的根拠に基づくがん検診法の有効評価に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター	200,000	補委	厚生労働省
市町村における住民検診・国保人間ドックによるがん検診提供の実態把握とその適正化に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター	500,000	補委	厚生労働省
低線量らせんCTを用いた革新的な肺がん検診手法の確立に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター	8,400,000	補委	厚生労働省
発がんリスクの低減に資する効果的な禁煙推進のための環境整備と支援方策の開発ならびに普及のための制度化に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター	1,100,000	補委	厚生労働省
がん死亡率減少に資するがん検診精度管理に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター	0	補委	厚生労働省
低線量胸部CTによる肺がん検診の有効性評価のための無作為比較試験	中山 富雄	がん予防情報センター	0	補委	厚生労働省
たばこ規制枠組み条約を踏まえたたばこ対策に係る総合的研究	田淵 貴大	がん予防情報センター	500,000	補委	厚生労働省
革新的な統計手法を用いたがん患者の生存時間分析とその情報還元に関する研究	伊藤 ゆり	がん予防情報センター	4,400,000	補委	厚生労働省
アジア諸国でのがん予防、がん検診、がん治療向上のための調査研究	伊藤 ゆり	がん予防情報センター	700,000	補委	厚生労働省
胃癌患者抹消血中の癌細胞由来浮遊DNA検出法の確立	加藤 菊也	研究所免疫学部門	100,000	補委	文部科学省
新規癌特異的糖鎖抗原の腫瘍マーカーとしての応用	宮本 泰豪	研究所免疫学部門	800,000	補委	文部科学省
家族性及び同胞癌症例ゲノム解析による遺伝性癌原因遺伝子の同定とその応用	久木田 洋児	研究所免疫学部門	1,600,000	補委	文部科学省
日本人ハプロイドゲノムの超並列シーケンス解析による構造多型の完全解明	久木田 洋児	研究所免疫学部門	200,000	補委	文部科学省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
解糖系をターゲットにした抗がん免疫増強療法の開発	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門	1,200,000	補委	文部科学省
サイトカイン遺伝子の導入による癌微小環境の改変がもたらす免疫療法増強効果の検討	赤澤 隆	研究所分子遺伝学部門	70,000	補委	文部科学省
トル様容体2リガンドの人工設計とアジュバントへの応用	赤澤 隆	研究所分子遺伝学部門	1,700,000	補委	文部科学省
新しい初代癌細胞培養法を用いた、癌における破壊・再生連鎖の解析	井上 正宏	研究所生化学部門	5,900,000	補委	文部科学省
新しい初代癌細胞3次元培養法を用いた低酸素によるDormancy誘導機構の解明	奥山 裕照	研究所生化学部門	1,200,000	補委	文部科学省
新しい癌細胞初代培養系(CTOS法)を用いた癌細胞の休眠状態と放射線感受性の検討	遠藤 洋子	研究所生化学部門	1,200,000	補委	文部科学省
骨軟部腫瘍幹細胞を標的とした新規治療法の開発	伊藤 和幸	研究所生物学部門	4,600,000	補委	文部科学省
Circulation Tumor Cellsを標的とした新規抗転移治療法の開発	伊藤 和幸	研究所生物学部門	1,400,000	補委	文部科学省
肺微小環境下におけるSSXの役割	吉岡 潔子	研究所生物学部門	1,200,000	補委	文部科学省
腫瘍細胞の幹細胞性と転移能の分子メカニズムの解析	笹川 覚	研究所生物学部門	1,000,000	補委	文部科学省
生物医薬品としての肉腫標的化腫瘍溶解性ウイルスの開発	山村 倫子	研究所病態生理学部門	800,000	補委	文部科学省
細胞内シグナル伝達とNon-coding RNAによる肝再生制御機構の解明	丸橋 繁	消化器外科	1,300,000	補委	文部科学省
胆道炎症によるIL-6/TGF- β クロストークから癌と周囲環境に与える変化	丸橋 繁	消化器外科	100,000	補委	文部科学省
肝移植における抗ドナー特異抗体産生意義の解明と個別化免疫療法の探求	秋田 裕史	消化器外科	100,000	補委	文部科学省
臨床膵島移植の成績を改善するための次世代ストラテジーを用いた包括的研究	秋田 裕史	消化器外科	100,000	補委	文部科学省
膵癌の癌細胞-癌間質におけるmicroRNA相互作用の解明と薬剤耐性克服法の構築	秋田 裕史	消化器外科	100,000	補委	文部科学省
オスナ法によるセンチネルリンパ節微小転移の臨床的意義と術前化学療法への応用	玉木 康博	乳腺・内分泌外科	500,000	補委	文部科学省
膠芽腫におけるmicrogliaの役割とそのin vivo MRイメージング	木下 学	脳神経外科	1,200,000	補委	文部科学省
新規モデルマウスによるIDH1遺伝子変異のグリオーマ発生における役割の解明	木下 学	脳神経外科	300,000	補委	文部科学省
11C-MET-PETによる悪性神経膠腫の治療効果判定法についての検討	沖田 典子	脳神経外科	1,600,000	補委	文部科学省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	著者	所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	西暦	月
1	Nakanishi K	放射線診断科	Transarterial embolization (TAE) of sacral giant cell Tumor (GCT) using spherical permanent embolic material superabsorbant polymer microsphere (SAP-MS).	Springerplus	2		666	673	2013	Dec
2	Takahashi H	放射線診断科	Squamous cell carcinoma originating in the parotid gland: MRI features with histopathological correlation.	Clin Radiol.	69	1	41	44	2014	Jan
3	Nakanishi K	放射線診断科	Whole-body MR imaging in detecting phosphaturic mesenchymal tumor (PMT) in tumor-induced hypophosphatemic osteomalacia.	Magn Reson Med Sci	12	1	47	2	2013	Mar
4	Shirai K	放射線治療科	Phantom and clinical study of differences in cone beam computed tomographic registration when aligned to maximum and average intensity projection	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2014	81	1	189	194	2014	Jun
5	Fujiwara A	呼吸器外科	Bilateral ovarian metastasis of non-small cell lung cancer with ALK rearrangement.	Lung Cancer	83	2	302	304	2014	Feb
6	Okami J.	呼吸器外科	Radiotherapy for postoperative thoracic lymph node recurrence of non-small-cell lung cancer provides better outcomes if the disease is asymptomatic and a single-station involvement.	Journal of Thoracic oncology	8	11	1417	24	2013	Nov
7	Tokunaga T.	呼吸器外科	Pleural recurrence after surgery for pleomorphic adenoma arising from peripheral lung: computed tomography-guided percutaneous needle biopsy as a possible mechanism of local failure.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	epub				2013	Aug
8	Inoue T	消化管内科	Delayed perforation: A hazardous complication of endoscopic resection for non-ampullary duodenal neoplasm.	Dig Endos	26	2	220	227	2013	Apr
9	Uedo N	消化管内科	Screening and treating intermediate lesions to prevent gastric cancer.	Gastroenterol Clin North Am	42	2	317	335	2013	Jun
10	Ishihara R	消化管内科	Pink-color sign in esophageal squamous neoplasia, and speculation regarding the underlying mechanism.	World J Gastroenterol	19	27	4300	4308	2013	Jul

小計
10

NO	著者	所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	西暦	月
11	Kanzaki H	消化管内科	Randomized study of two endo-knives for endoscopic submucosal dissection of esophageal cancer.	Am J Gastroenterol	108	8	1293	1298	2013	Aug
12	Yamashina T	消化管内科	Long-term outcome and metastatic risk after endoscopic resection of superficial esophageal squamous cell carcinoma.	Am J Gastroenterol	108	4	544	551	2013	Apr
13	Hanaoka N	消化管内科	Clinical outcomes of endoscopic mucosal resection and endoscopic submucosal dissection as a transoral treatment for superficial pharyngeal cancer.	Head Neck.	35	9	1248	1254	2013	Sep
14	Takeuchi Y	消化管内科	An electrosurgical endoknife with a water-jet function (flushknife) proves its merits in colorectal endoscopic submucosal dissection especially for the cases which should be removed en bloc.	Gastroenterol Res Pract.	EPUB				2013	Sep
15	Ikezawa K	肝胆膵内科	Risk of peritoneal carcinomatosis by endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic cancer.	J Gastroenterol	48		966	972	2013	Aug
16	Imamura F	呼吸器内科	Novel chemoradiotherapy with concomitant boost thoracic radiation and concurrent cisplatin and vinorelbine for stage IIIA and IIIB non-small-cell lung cancer.	Clin Lung Cancer	19		281	286	2014	Feb
17	Nishino K	呼吸器内科	A retrospective analysis of 335 Japanese lung cancer patients who responded to inifral gefirininib treatment.	Lung Cancer	82		299	304	2013	
18	Sueda T	消化器外科	Case of isolated lateral lymph node recurrence occurring after TME for T1 lower rectal cancer treated with lateral lymph node dissection: report of a case.	Surg Today	43	7	809	813	2013	Jul
19	Imada S	消化器外科	Recurrence of hepatocellular carcinoma presenting as an asymptomatic appendiceal tumor: report of a case.	Surg Today	43	6	685	689	2013	Jun
20	Takahashi H	消化器外科	Preoperative gemcitabine-based chemoradiation therapy for resectable and borderline resectable pancreatic cancer.	Ann Surg	258	6	1040	1050	2013	Dec

小計
10

NO	著者	所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	西暦	月
21	Tanaka K	消化器外科	Visceral fat changes after distal gastrectomy according to type of reconstruction procedure for gastric cancer.	World J Surg Oncol	11	146	1	6	2013	Jun
22	Imada S	消化器外科	Efficacy of subcutaneous penrose drains for surgical site infections in colorectal surgery.	World J Gastrointest Surg	5	4	110	114	2013	Apr
23	Motoori M	消化器外科	Early response to neoadjuvant chemotherapy in advanced esophageal cancer evaluated by computed tomography predicts the utility of a second cycle of chemotherapy.	Mol Clin Oncol	1	3	521	526	2013	May
24	Fujiwara Y	消化器外科	The clinical importance of a transcription reverse-transcription concerted (TRC) diagnosis using peritoneal lavage fluids in gastric cancer with clinical serosal invasion: a prospective, multicenter study.	Surgery	155	3	417	423	2014	Mar
25	Marubashi S	消化器外科	Prediction of the Postoperative Prognosis of Intrahepatic Cholangiocarcinoma (ICC): Importance of Preoperatively-Determined Anatomic Invasion Level and Number of Tumors.	Dig Dis Sci.	59	1	201	213	2014	Nov
26	Motomura K	乳腺・内分泌外科	Correlation between the area of high-signal intensity on SPIO-enhanced MR imaging and the pathologic size of sentinel node metastases in breast cancer patients with positive sentinel nodes.	BMC Med Imaging	13	32	open access		2013	Sep
27	Motomura K.	乳腺・内分泌外科	Sentinel nodes identified by computed tomography-lymphography accurately stage the axilla in patients with breast cancer.	BMC Med Imaging	13	42	open access		2013	Dec
28	Ishitobi M	乳腺・内分泌外科	Breast cancer subtype and distant recurrence after ipsilateral breast tumor recurrence.	Ann Surg Oncol	20	6	1886	1892	2013	Jul
29	Ishitobi M	乳腺・内分泌外科	Preferences for oral versus intravenous adjuvant chemotherapy among early breast cancer patients.	Patient Prefer Adherence	7		1201	1206	2013	Nov
30	Yoshida H	血液・化学療法科	Significant improvement following combination treatment with mefloquine and mirtazapine in a patient with progressive multifocal leukoencephalopathy after allogeneic peripheral blood stem cell transplantation.	Int J Hematol.	1	99	95	99	2014	Jun

小計
10

NO	著者	所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	西暦	月
31	Kinoshita M	脳神経外科	Different spatial distribution between GCB and non-GCB primary central nervous system lymphoma revealed by MR group analysis.	Neuro-oncology	16	5	728	734	2014	May
32	Okita Y	脳神経外科	Extended trastuzumab therapy improves the survival of HER-2-positive breast cancer patients after surgery and radiotherapy for brain metastases.	Molecular and Clinical Oncology	1	6	995	1001	2013	Nov
33	Nagata S	病理・細胞診断科	Pancreatic juice cytology of serous cystic neoplasma communicating with the pancreatic duct:diagnostic pitfalls in this rare entity	Cytopathol	24	(2)	199	201	2013	Apr
34	Tomoeda M	病理・細胞診断科	Role of antioxidant vitamins administration on the oxidative stress	Cent Europ J Med	8	(4)	509	516	2013	Aug
35	Miyashiro I	がん予防情報センター	High false-negative proportion of intraoperative histological examination as a serious problem for clinical application of sentinel node biopsy for early gastric cancer: Final results of the Japan Clinical Oncology Group multicenter trial JCOG0302	Gastric Cancer			Epub ahead of print		2013	Aug
36	Ikeda A	がん予防情報センター	Descriptive epidemiology of bile duct carcinoma in Osaka.	Japanese Journal of Clinical Oncology	43	11	1150	1155	2013	Nov
37	Ito Y	がん予防情報センター	Conditional survival for longer-term survivors from 2000-2004 using population-based cancer registry data in Osaka, Japan.	BMC Cancer	13	1	304		2013	Jun
38	Tabuchi T	がん予防情報センター	Complete workplace indoor smoking ban and smoking behavior among male workers and female non-smoking workers' husbands: A pseudo-cohort study of Japanese public workers.	BioMed Research International			Article ID 303917		2014	Mar
39	Tabuchi T	がん予防情報センター	Does removal of out-of-pocket costs for cervical and breast cancer screening work? A quasi-experimental study to evaluate the impact on attendance, attendance inequality and average cost per uptake of a Japanese government intervention.	International Journal of Cancer	133	4	972	983	2013	Aug
40	Tabuchi T	がん予防情報センター	Tobacco smoking and the risk of subsequent primary cancer among cancer survivors: a retrospective cohort study.	Annals of Oncology	24	10	2699	2704	2013	Jul

小計
10

NO	著者	所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	西暦	月
41	Kukita Y	研究所) 分子生物学	Quantitative identification of mutant alleles derived from lung cancer in plasma cell-free DNA via anomaly detection using deep sequencing data.	PLoS One.	21	8	e81468	304	2013	Nov
42	Endo H	研究所) 生化学	Spheroid culture of primary lung cancer cells with neuregulin 1/HER3 pathway activation	J Thorac Oncol	8	2	131	139	2013	
43	Okuyama H	研究所) 生化学	Involvement of heregulin/HER3 in the primary culture of human urothelial cancer	J Urol	190	1	302	310	2013	
44	Tanaka T	研究所) 生物学	Dynamic analysis of lung metastasis by mouse osteosarcoma LM8; VEGF is a candidate for anti-metastasis therapy.	Clin Exp Metastasis	30	4	369	379	2013	Apr
45	Ohashi T	研究所) 分子遺伝学	Dichroloacetate improves immune dysfunction caused by tumor-secreted lactic acid and increases antitumor immunoreactivity.	Int. J. Cancer	133	5	1107	1118	2013	Sep

計
45

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

平成26年度 英文論文 (速報)

NO	著者	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月		和文 or 英文	提出診療科	提出年月日
								西暦	月			
1	Kawada N,	Potential use of point shear wave elastography for the pancreas: a single center prospective study.	Eur J Radiol.	83		620	624	2014	4	英文	病理・細胞診断科	2014.5.7
2	Miyashiro I	High false-negative proportion of intraoperative histological examination as a serious problem for clinical application of sentinel node biopsy for early gastric cancer: final results of the Japan Clinical Oncology Group multicenter trial JCOG0302	Gastric Cancer	17	2	316	323	2014	4	英文	がん予防情報センター	2014.5.29
3	Katayama K	The computed tomography during hepatic arteriography pattern may predict hepatocellular carcinoma recurrence following transarterial chemoembolization.	Hepatology Research			on line		2014	4	英文	肝胆膵内科	2014.5.30
4	Nobuhito Araki	New practical approach against sarcoma	Journal of Orthopaedic Science	19	3	377	378	2014	4	英文	整形外科	2014.5.30
5	Kinoshita M	Different spatial distribution between GCB and non-GCB primary central nervous system lymphoma revealed by MR group analysis.	Neuro-oncology	16	5	728	734	2014	5	英文	脳神経外科	2014.6.2
6	Hori M	Rivaroxaban vs. Warfarin in Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation in Relation to Age.	Circ J.	78	6	1349	1356	2014	5	英文	名誉総長(堀正二)	2014.6.2
7	Akazawa, T.	Development of a dendritic cell-targeting lipopeptide as an immunoadjuvant that inhibits tumor growth without inducing local inflammation.	Int. J. Cancer			in press				英文	研)分子遺伝子学	2014.6.4
8	Okuyama T	Porous diaphragm syndrome with repeated rapid accumulation of pleural effusion.	Intern Med	53	10	1075	1077	2014	5	英文	呼吸器外科	2014.6.12
9	Takano K	A reminder about the trigeminocardiac reflex in surgeries at the posterior third of the falx cerebri	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management	1	3	47	49	2014	9	英文	脳神経外科	2014.6.30

NO	著者	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月		和文 or 英文	提出診療科	提出年月日
								西暦	月			
10	Tabuchi Takahiro	Individualized and institutionalized residential place-based discrimination and self-rated health: a cross-sectional study of the working-age general population in Osaka city, Japan.	BMC Public Health	14	1	449		2014	5	英文	がん予防情報センター	2014.6.30
11	Ito Y	Socioeconomic inequalities in cancer survival: A population-based study of adult patients diagnosed in Osaka, Japan, during the period 1993-2004	Acta Oncol							英文	がん予防情報センター	2014.6.30
12	Otani K	Steroid treatment increases the recurrence of radiation-induced organizing pneumonia after breast-conserving therapy	Cancer Med							英文	がん予防情報センター	2014.6.30
13	Mitsuru Sakakibara	Three-dimensional registration of images obtained before and after radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma to assess treatment adequacy.	American Journal of Roentgenology	202	5	W487	W495	2014	5	英文	肝胆膵内科	2014.6.30
14	Katayama K	Effect of zinc on liver cirrhosis with hyperammonemia: A preliminary randomized, placebo-controlled double-blind trial.	Nutrition			on line		2014	5	英文	肝胆膵内科	2014.6.30
15	Ryoji T	Duodenal Hemorrhage from Pancreatic Cancer Infiltration Controlled through Combination Therapy with Gemcitabine and S-1	Case Pep Gastroenterol	8		221	226	2014	6	英文	肝胆膵内科	2014.6.30
16	Tateishi S	More accurate estimation in prostate volume achieved by optimized single slab 3D SPACE compared with 2D-TSE: A quantitative study based on the radical prostatectomy specimens.	Proc.Intl.soc.Mag. Reson.Med.22(2014)	22		3573	3573	2014	5	英文	放射線技師	2014.6.30
17	Miyazaki S	Effects of duration of the diffusion-encoding gradient (δ) and/or diffusion time interval (Δ) in diffusion weighted MRI: assessing ADC and Kurtosis in human brain.	Proc. Intl. Soc. Mag. Reson. Med.	22		4459	4459	2014	5	英文	放射線技師	2014.6.30
18	Akazawa T	Development of a dendritic cell-targeting lipopeptide as an immunoadjuvant that inhibits tumor growth without inducing local inflammation	International Journal of Cancer			Epub ijc2893 9		2014	5	英文	研)病理学	2014.7.2

NO	著者	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月		和文 or 英文	提出診療科	提出年月日
								西暦	月			
19	Ishitobi M	Regional lymphatic recurrence after salvage surgery for ipsilateral breast tumor recurrence of breast cancer without local treatment for regional lymphatic basin.	J Surg Oncol.	head	head	ahead of	ahead of	2014	5	英文	乳腺・内分泌科	2014.7.14
20	Kawada N, Tomita Y.	Porous Diaphragm Syndrome with Repeated Rapid Accumulation of Pleural Effusion	Internal medicine	53		1075	1077	2014	5	英文	呼吸器内科	2014.7.14
21	Miyashiro I	Evaluation of the new IASLC/ATS/ERS proposed classification of adenocarcinoma based on lepidic pattern in patients with pathological stage IA pulmonary adenocarcinoma.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.			e-pub		2014	6	英文	呼吸器外科	2014.7.14
22	Katayama K	Alteration of strain ratio evaluated by transabdominal ultrasound elastography may predict the efficacy of preoperative chemoradiation performed for pancreatic ductal carcinoma: preliminary results.	Hepatogastroenterology	130		480	483	2014	5	英文	病理・細胞診断科	2014.7.22
23	Nobuhito Araki	Pancreatic Fatty Degeneration and Fibrosis as Predisposing Factors for the Development of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Pancreas	e-pub				2014	7	英文	病理・細胞診断科	2014.7.22
24	Kinoshita M	Deflection of VEGF action by SS18-SSX and composite VEGF- and CXCR4-targeted therapy in synovial sarcoma	Cancer Science	Epub ahead of print				2014	6	英文	研)生物学	2014.7.24
25	Hori M	Dormancy of Cancer Cells with Suppression of AKT Activity Contributes to Survival in Chronic Hypoxia	PLoS One	9	6	e98858		2014	6	英文	研)生化学	2014.7.29
26	Akazawa, T.	Precise structural analysis of O-linked oligosaccharides in human serum.	Glycobiology	24	6	542	553	2014	6	英文	研)分子生物学	2014.7.31
27	Okuyama T	Prognosis associated with surgery for non-small cell lung cancer and synchronous brain metastasis.	Surg Today	44	7	1321	1327	2014	7	英文	呼吸器外科	2014.8.12

NO	著者	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月		和文 or 英文	提出診療科	提出年月日
								西暦	月			
28	Takano K	Novel chemoradiotherapy with concomitant boost thoracic radiation and concurrent cisplatin and vinorelbine for stage IIIA and IIIB non-small-cell lung cancer.	Clin Lung Cancer	15	4	281	286	2014	7	英文	呼吸器内科	2014.8.20
29	Tabuchi Takahiro	Endoscopic optical diagnosis provides high diagnostic accuracy of esophageal squamous cell carcinoma	BMC Gastroenterology							英文	消化管内科	2014.9.1
30	Ito Y	Diagnostic Features of Sessile Serrated Adenoma/Polyps on Magnifying Narrow Band Imaging: A Prospective Study of Diagnostic Accuracy.	J Gastroenterol Hepatol.			Epub ahead of print		2014	8	英文	消化管内科	2014.9.1
31	Otani K	Prognostic prediction of glioblastoma by quantitative assessment of the methylation status of the entire MGMT promoter region	BMC Cancer	14		641	641	2014	8	英文	研)分子遺伝子学	2014.9.1
32	Mitsuru Sakakibara	Endoscopic optical diagnosis provides high diagnostic accuracy of esophageal squamous cell carcinoma.	MC Gastroenterology	14	1	141		2014	8	英文	医療情報部	2014.9.3
33	Katayama K	Steroid treatment increases the recurrence of radiation-induced organizing pneumonia after breast-conserving therapy	(On line) Cancer Medicine	3	4	947	953	2014	8	英文	放射線治療科	2014.9.11
34	Ryoji T	Comparison of acute and subacute genitourinary and gastrointestinal adverse events of radiotherapy for prostate cancer using intensity-modulated radiation therapy, three-dimensional conformal radiation therapy, permanent implant brachytherapy and high-dose-rate brachytherapy	(電子版) Tumori	100		265	271	2014	8	英文	放射線治療科	2014.9.11
35	Tateishi S	Deflection of VEGF action by SS18-SSX and composite VEGF- and CXCR4-targeted therapy in synovial sarcoma	Cancer Science			1	11	2014	6	英文	研)生物学	2014.9.12
36	Miyazaki S	Single-incision laparoscopic cecectomy for low-grade appendiceal mucinous neoplasm after laparoscopic rectectomy.	World J Gastrointest Surg	6	5	84	87	2014	5	英文	消化器外科	2014.9.18

NO	著者	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月		和文 or 英文	提出診療科	提出年月日	
								西暦	月				
37	Akazawa T	Solitary mediastinal lymph node recurrence after curative resection of colon cancer.	World J Gastrointest Surg	6	8	164	168	2014	8	英文	消化器外科	2014.9.18	
38	Ishitobi M	Diagnostic Laparoscopy with 5-Aminolevulinic-Acid-Mediated Photodynamic Diagnosis Enhances the Detection of Peritoneal Micrometastases in Advanced Gastric Cancer.	Oncology	87	5	257	265	2014	8	英文	消化器外科	2014.9.18	
39	Fujii T	Boerhaave's syndrome in a tracheoesophageal speaker: report of a case.	Surg Today	44	8	1569	1572	2014	8	英文	消化器外科	2014.9.18	
40	Motoori M	Tissue factor predicts response to chemotherapy in esophageal cancer	J Surg Res	191	1	99	105	2014	9	英文	消化器外科	2014.9.18	
41	Fujino S	New enhanced and effective method for staging cancer to detect lymph nodes after fat-dissociation.	Oncol Rep	32	3	922	926	2014	9	英文	消化器外科	2014.9.18	
42	Fujino S	Primary osteosarcoma of the heart with long-term survival: A case report of laparoscopic resection of a metastatic sarcoma in the intestine.	Oncol Lett	8	4	1599	1602	2014	10	英文	消化器外科	2014.9.18	
43	Yamashina T	Long-term survival after endoscopic resection for early gastric cancer in the remnant stomach: comparison with radical surgery	Annals of Gastroenterology	27		Epub		2014	8	英文	消化管内科	2014.9.24	
44	Uedo N	Underwater endoscopic mucosal resection of a large depressed adenoma in the ileum.	Endoscopy	46	Suppl 1	E336	E337	2014	8	英文	消化管内科	2014.9.24	
45	Ohkawa K	Factors Related to Shift from Hepatic Borderline Lesion to Overt HCC Diagnosed by CT.	Hepatogastroenterology	134	61	1680	1687	2014	9	英文	肝胆膵内科	2014.9.24	
46	Kinoshita M	Development of non-tissue adherent neurosurgical patty and an ex vivo assay system for adherent characteristic evaluation.	J Neurosurg	in press							英文	脳神経外科	2014.6.29

NO	著者	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月		和文 or 英文	提出診療科	提出年月日
								西暦	月			
47	Ito Y	Long-term survival and conditional survival of cancer patients in Japan using population-based cancer registry data.	Cancer science			on line		2014	8	英文	がん予防情報センター	2014.9.29
48	Ishitobi M	Treatment sequence of aromatase inhibitors and radiotherapy and long-term outcomes of breast cancer patients.	Anticancer Res.	34	8	4311	4314	2014	8	英文	乳腺・内分泌科	2014.10.1

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会の目的や委員構成及び会議の開催要件、迅速審査、審査結果の報告手続きなどを定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況(研究助成部会を含まない)	年4回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義、職員からの申告、利益相反委員会の運営、規則に違反した場合の措置などを定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 モニタリング・監査の観点から臨床研究を実施するうえで重要なこと(平成25年11月14日実施) 臨床研究のデザインとデータ解析(平成26年2月25日実施)	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【研修について】

研修を行うにあたり、病院として提供しなければならないことは、「①問題に直面して学ぶ必要のある環境（つまり、多数の症例）、②自分や同僚、上級者から自由に学べる環境、③学んだことが直ちに行える、あるいは応用できる環境、④尊敬できる上級者がそばにいて、それを真似ることができる環境」と考えており、「勤務の中でごく自然に知識や技術が学習できる環境」づくりを心掛けている。

また、「知識や技術の学習」と同時に「問題解決能力」の養成も不可欠であるが、当センターは病院の性格上、診断や治療が困難な症例を診療する機会が多いことが特徴であり「問題解決能力」のトレーニングにも適していると考えている。

現在ではインフォームドコンセントに基づいた医療を行うことが必須である。これには知識や技術の他に、科学的思考に基づく情報（事実）の収集と分析、さらにその結果を論理的に説明できる能力が必要となる。これは医療安全だけでなく、長い臨床医としてのキャリアパスから考えても非常に重要なことと考えている。

当センターでは日常臨床や学会発表の場を通じてこれらのスキルが十二分に習得できるプログラムを設定している。

【研修プログラム】

各診療科において、2年間の初期臨床研修を終了し、後期臨床研修を予定しているものを対象とするプログラムと、後期臨床研修中あるいは修了者またはそれに相当する学識を有する者を対象としたプログラムを作成している。

目的は、各診療分野での診療・研究を行う上で必要な高度な専門的知識と技術を習得するとともに、学会、論文発表などの学術面での研修を行うことである。

希望者には、臓器を絞ったコースの設定も行っている。

2 研修の実績

研修医の人数	41.58人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
石原 立	消化管内科	主任部長	22年	
片山 和宏	肝胆膵内科	副院長	33年	
今村 文生	呼吸器内科	主任部長	30年	
矢野 雅彦	消化器外科	副院長	33年	
東山 聖彦	呼吸器外科	副院長	34年	
玉木 康博	乳腺・内分泌外科	副院長	33年	
和田 信	心療・緩和科	部長	22年	腫瘍精神科
荒木 信人	整形外科	主任部長	28年	
木下 学	脳神経外科	医長	14年	
上浦 祥司	婦人科	主任部長	31年	
藤井 隆	耳鼻咽喉科	主任部長	28年	
中西 克之	放射線診断科	主任部長	28年	
手島 昭樹	放射線治療科	主任部長	34年	
谷上 博信	麻酔科	主任部長	28年	
今村 文生	臨床腫瘍科	部長	30年	
富田 裕彦	病理・細胞診断科	主任部長	28年	
石川 淳	血液・化学療法科	主任部長	28年	
向井 幹夫	循環器内科	主任部長	30年	
山崎 知行	臨床検査科	主任部長	28年	
三浦 拓也	心臓血管外科	主任部長	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
各診療科、看護部、薬局、検査科などで、他の医療機関の医療従事者の研修や見学を行っている。 また、国内だけでなく外国人の研修・見学の受け入れも行っている。 【一例】 ① 緩和ケア研修 平成25年7月13日～14日 ドーンセンター 参加 35名 ② 第二回大阪府在宅緩和ケア地域連携研修会 平成25年9月7日 大阪府立成人病センター 大講堂 参加 126名 ③ 緩和ケアチーム研修会 平成25年12月8日 たかつガーデン 参加 18チーム 54名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 左近 賢人
管理担当者氏名	総務・人事マネージャー 北邨健司、経営企画マネージャー 河村 徳次 薬局長 福島 宣久、医療情報部長 松永 隆、 放射線主任部長 中西 克之

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		医療情報部、中 央手術室、看護 部、放射線診断 科、各診療科、 病歴管理室	カルテ等病歴資料は、外来・入院別 に患者一カルテ方式として、一つの ID番号により病歴管理室で集中 管理を行っている。 エックス線写真は、放射線診断科で 集中管理をしている。 その他、電子カルテシステムにもデ ータが保存されており、医療情報部 が管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	総務・人事G	人事管理システムで保管
	高度の医療の提供の実績	医療情報部	コンピューター管理他
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	臨床研究セン ター	年度毎にファイルに綴じて保管
	高度の医療の研修の実績	総務・人事G	年度毎にファイルに綴じて保管
	閲覧実績	医事G	年度毎にファイルに綴じて保管
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事G	地域連携情報をファイルに綴じて 保管
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	経営企画G 薬局	診療情報をファイルに綴じて保管 調剤情報をファイルに綴じて保管
第規 一則 号第 一に 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 況び 第九 条の	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	医療安全管理 部門	ファイルに綴じて保管
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医療安全管理 部門	年度毎にファイルに綴じて保管
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医療安全管理 部門	年度毎にファイルに綴じて保管
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理 部門	年度毎にファイルに綴じて保管
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全管理 部門	ファイルに綴じて保管
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染対策室	ファイルに綴じて保管

	二十第一項	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部門	ファイルに綴じて保管
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談室	ファイルに綴じて保管

		保管場所		管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室	ファイルに綴じて保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	年度毎にファイルに綴じて保管
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬局	ファイルに綴じて保管
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬局	年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬局	年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬局	年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	副院長室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	C E 室	年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	C E 室	年度毎にファイルに綴じて保管
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	C E 室	年度毎にファイルに綴じて保管		

				【診療録の病院外への持ち出し】 診療録の病院外への持ち出しは 認めていない。
--	--	--	--	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 左近 賢人		
閲覧担当者氏名	医療情報部主任部長 松永 隆 医事総括 本城 孝一郎		
閲覧の求めに応じる場所	(窓口) 医事グループ (閲覧場所) 医療情報部		
閲覧の手続の概要 医事グループあてに閲覧申請を行い、医療情報部で記録を確認し、医療情報部で閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>医療安全管理体制、医療安全研修に関する基本方針、インシデントの報告、医療事故発生時の対応医療従事者と患者の情報共有、患者からの相談への対応、医療安全管理マニュアルの作成・更新、医療安全管理に関する指針の公開</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 8 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療事故調査委員会・医療支援チームの設置。 医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び対応の検討。 重大な医療事故発生時の速やかな発生原因の分析・再発防止策の立案。 病院機構本部・日本医療評価機構等への報告。 医療安全管理マニュアル等の作成・更新。 医療安全に関する職員の教育及び研修の企画・運営・評価。 医薬品に係る安全管理、医療機器の保守点検・安全使用に関すること。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>全職員対象第1回研修「心肺蘇生ガイドライン2010よりBLS・AEDに関して」 第2回研修「医薬品安全管理をめぐる最近の話題」 5センター合同研修「医療コンフリクト・マネジメント研修」「新規採用者BLS研修」 「人工呼吸器・心電図モニター取扱い研修」「医薬品安全研修」「グルコース分析装置説明会」 クランク研修、病棟婦・看護助手研修、新規採用心電図モニター研修会など</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>バックバルブマスクの点検表作成およびマニュアルの改訂 「リハビリ室入口梁と支柱台の衝突のインシデント」より注意喚起 「埋め込みポート穿刺針のサイズ間違えの事例」より注意喚起 「ベッド柵内に頭部が挟まった事例」より注意喚起及びベッドの点検 「行方不明の事例」よりフローチャート作成およびマニュアルの改訂 医療安全管理マニュアルの改訂 医療安全情報 (12/年) の作成・配布、院内掲示板の更新</p>	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(1名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（1）名 兼任（8）名 非常勤（2）名 ・ 活動の主な内容： インシデント報告書の分析、再発防止策の策定及び職員に周知。 事故発生時の対応状況について確認と指導。医療安全管理委員会の事務局。 担当医療安全管理者会議の企画・運営。医療安全研修の企画・実施・評価。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容： 院内感染防止に係る基本的な考え方、委員会等組織に関する基本的事項、職員研修に関する基本方針、院内感染報告制度、院内感染発生時の対応、指針の公開	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容： 細菌分離状況および耐性菌発生状況の把握、サーベイランスデータ報告（手術部位感染、血管内留置血流感染、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、多剤耐性緑膿菌、基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌などの多剤耐性菌検出状況）重症感染症発生状況の把握、抗MRSA・カルバペネム系抗生剤使用状況の把握、アウトブレイク発生時の指揮指導および改善策の実施状況についての調査と見直し	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 1 3 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： 標準予防策、適切な防護具着脱の演習、手洗い演習、安全機能付き翼状針・留置針の取り扱いの演習、N95マスクの正しい装着方法、感染経路別予防策、病院清掃について、手術部位感染について、インフルエンザについて、結核菌への曝露リスク、MRSA感染症に関する最近の話題	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備 (有 無)その他の改善のための方策の主な内容： 所属ごとに担当感染対策推進者（リンクドクター、リンクナース）を任命し、情報伝達および現場からの報告があがるようにしている。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">H25. 5. 27 高カロリー輸液の隔壁通過法について 55人H26. 1. 10 医薬品安全管理をめぐる最近の話題 409人新しい剤形の麻薬についてH26. 5. 28 造影剤の適正使用について 154人	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 (有・無)業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医薬品の採用、購入、管理。各部署への医薬品の供給。各部署での医薬品の管理と使用医薬品の廃棄他の医療施設との連携事故対応時の対応教育・研修管理の必要な薬剤のマニュアル(麻薬、サレド、レブラミド、ノルスパン、持参薬)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)<ul style="list-style-type: none">各社MR、PMDAメディアナビからの情報収集情報の周知：①院内LANによるメール送信②薬事ニュース等による紙メディアでの情報提供その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医薬品安全管理委員会の開催医療安全管理委員会との連携医薬品安全管理委員会を医療安全管理委員会の連携委員会として位置づけ、医薬品安全管理責任者および薬局長は両委員会の委員を兼ね、医療安全管理者は医薬品安全管理委員会の委員を兼ねる。医療安全管理委員会において医薬品安全管理委員会の報告を行うなど、厳密な連携を図っている。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 8回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○新規導入医療機器については、使用予定者に対する研修を導入時に実施（随時）（H25年度実績26回）。○それとは別に、生命維持管理装置を中心とした、病棟やICUなどで使用頻度の高い機器の研修を実施（年8回）。○研修内容については、当該医療機器の有効性や安全性、使用方法、保守点検、トラブル対応などを含む	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (有・無)・ 保守点検の主な内容： 生命維持管理装置はもちろん、電気メスをはじめとする高エネルギー装置や、病棟使用頻度の高い輸液・シリンジポンプなど、それぞれの機器に合わせた点検方法を設定し、保守点検計画に則ったスケジュールにて実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： 主に医薬品医療機器総合機構の供する同情報提供ホームページやメール配信サービスなどを利用し、併せて医療機器メーカーからの提供情報も収集して、該当機器については確認及び部署への連絡を実施している。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成 25 年 2 月受審 平成 25 年 5 月 日本病院機能評価 (Ver6.0) 認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ① 講演会、研修等への講師の派遣 ② 公開講座、がんフォーラム等の開催 ③ 広報誌の発行 ④ インターネット等を利用した広報	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ● 各疾患臓器別グループ臨床カンファレンス 外科、内科、放射線診断科、放射線治療科、病理細胞診断科など各診療科からなる各疾患臓器別がんボード (例 呼吸器グループ臨床カンファレンス) による患者さんの診断治療に関する臨床カンファレンス体制 ● 多臓器進展腫瘍外科切除に対する術前外科系及び麻酔科合同カンファレンス 複数外科系診療科による外科切除が必要な症例には、麻酔科を含めた術前合同カンファレンス体制	